

起業インターンシップ プログラム 2022 実施報告

テーマ:『起業』とは何か(そもそも“起業”って何なん!?)

実施日時: 2023(令和5)年 3月11日(土)13:00~16:00

3月12日(日)13:00~16:30

実施場所: キャンパスポート大阪(大阪市北区梅田 1-2-2-400 大阪駅前第2ビル4階)

講師: 公益財団法人大阪産業局 イノベーション推進部 次長

スタートアップ創出チーム リーダー 松出 晶子氏

株式会社ニューラルポート 代表取締役社長 島藤 安奈氏

(関西スチューデントピッチグランプリ(※)2020 最優秀賞受賞)

※イノベーション人材の育成に取組む関西圏の大学の推薦チームによる学生ピッチコンテスト

株式会社 Monozukuri Ventures CEO 牧野 成将氏

大阪工業大学 大学院 宮田 祈氏(学生)

(関西スチューデントピッチグランプリ 2022 最優秀賞受賞)

コーディネーター:大阪経済大学 経営学部 教授 吉野 忠男氏

参加学生数: 7大学 13名

(大学別) 大阪大学 3名/大阪公立大学 3名(大阪市立大学・大阪府立大学各1名を含む)/
大阪経済大学 2名/大阪工業大学 1名/大阪体育大学 1名/四天王寺大学 2名/
摂南大学 1名

(学年別) 1年生:2名/2年生:5名/3年生:3名/4年生:1名/その他:2名(修士・研究生各1名)

企画・運営: 大学コンソーシアム大阪 キャリア支援部会 インターンシップ推進委員会

共 催: 大阪イノベーションハブ(OIH)

1.事業趣旨

「アクティブ・ラーニングの具現化」、「with コロナ時代の新たな進路に関する意識啓発、やる気の創出」を目的に、「起業」という新たな視点から「働く」ことを考える機会を提供する。また、同時に、就業以外の職業選択の可能性を見出しながら、起業マインドを醸成するとともに、自分自身と向き合い、自分自身を表現し、自分自身を再発見する機会とすることを旨とする。

2.プログラム概要

日程・会場	プログラム	内容
3月11日(土) 13:00~16:00 キャンパスポート 大阪	* DAY1 * 「起業」は選択肢になりえる!?	◇導入:起業とは?(吉野コーディネーター) ◇講義:起業の現況とサポート(松出講師) ◇起業家講演・パネルトーク:起業のリアル(島藤講師・牧野講師)
3月12日(日) 13:00~16:30 キャンパスポート 大阪	* DAY1 * 「起業」したらどうなる!?	◇シェアリングトーク: なぜ「起業」だったのか?/起業の発想法(宮田講師) ◇グループワーク・発表: オンリーワン企業をつくってみよう! ◇総括:講評と修了証授与 (吉野コーディネーター・宮田講師)

3. 導入

■大阪経済大学 吉野 忠男氏

大学卒業後の進路として「なんとなく」就職を選ぶ人は多い。現在、大卒者の離職率は卒業後3年以内で約3割だが、就職した場所で「やりたいこと」がある人は、困難を乗り越える理由があるからこそ頑張り続けることができる。一方、起業家も、何らかの形で自分の「やりたいこと」をベースに起業している人が多い。結局は「何がやりたいか＝目標・目的」を考えることが大事だ。また、起業する場合も、人生の時間軸のなかで様々な機会(卒業後、就職後、定年退職後など)があることを知り、自らに置き換えてイメージしてほしい。選択肢は、多種多様で定石はない。まずは今回のプログラムを、自身の人生の目標・目的を考えるよい機会としてほしい。

4. 講義

■大阪産業局 松出 晶子氏

ベンチャー企業には、スモールビジネス(長期的・安定的成長を目指す)、スタートアップ(短期間で急成長し、社会的イノベーションをもたらす)等の区分があり、スタートアップの中にも利益追求型のユニコーン企業、社会課題の解決を目指すゼブラ企業、大学発スタートアップと様々な区分がある。また起業方法も個人事業主となる、法人を作る、社内起業するなど様々であり、ゴールも株式上場、バイアウト等の選択肢があり、一様ではない。いずれの場合も、「自分ができること」を基準に起業する人は挫折しやすい。「何がしたいか」により選択することを勧めたい。人生は長く、選択肢は無限だ。起業はあくまで一手段であり、どれを選ぶかは主体的に自分で決めることが大事だと考える。

5. 講演

■株式会社ニューラルポート 島藤 安奈氏

「視線」をキーワードに様々な事業を行っている。小学校の時、なぜ視線を感じるのだろうと思ったことが原体験だった。高校中退後、図書館で「自閉症のこどもは目が合わない」という一文に出会い、視線と自閉症の研究を志して大学に編入。3年次で参加した起業講座で刺激を受け、自ら場数を踏んでプレゼン力を培ったり、学費を賄うため学振の研究者に応募するなど、チャンスは自ら掴みに行った。学振に採択され、博士課程に進学して自閉症の研究を続けたが、研究室には海外勢も多く、苦労もあった。しかし同時に鍛えられ、研究に対しての海外視点も獲得した。



所属する研究室やゼミだけに囚われるのではなく、アンテナを張り、興味のある場所、人と接することを勧めたい。起業したのは2020年で、ATR採択を挟んで2022年より事業を開始した。テクノロジーで人を進化させることをミッションとして掲げ、ゾーン状態に入ってハイパフォーマンスを実現するゾーンカプセルやVRストレスチェックで視線解析によりメンタルを数値化する事業を推進している。これらは研究の成果をビジネスにすることで、結果として社会貢献となることを意図している。東京で多額の資金調達に成功した仲間を見て焦ったこともあったが、関西で研究を続け、VC/CVCを入れずに7,800万円の資金を調達することができた。経営に再現性はなく、資金は何とかなる。苦手なことはできる人に頼むなど、色々な人を巻き込み、情熱をもってそれぞれのカラーでチャレンジしてほしい。

■株式会社 Monozukuri Ventures 牧野 成将氏

日本企業が世界に対して大きな影響力を持った時代に生まれたが、成長の過程でその衰退とアメリカや中国の台頭を目の当たりにした。なぜこんなに差が開いたのかという疑問が自身の原点である。アメリカにはビルゲイツやイーロンマスクなど、破格の夢を持つ実業家がおらず、成功してもなお夢を追い続けている。ビジョンと夢の大きさがその人の器を決める。様々な制約はあっても、夢だけは大きく描いてほしい。自身は「も

のづくり」で世界を変えていこうとチャレンジしている。製造業は量産化までが困難な道程であり、VCも投資を避けるなかで、日本の技術力や京都のネットワークを生かして、ものづくりに挑戦できる環境や社会を関西・京都から、日本のみならず、アメリカなど世界に発信している。企業同士のマッチングによる量産化支援(テックコンサル)、スタートアップへの投資(VC投資)、大企業との連携支援等による事業拡大サポート(オープンイノベーション)の3つの事業に加え、「テック(モノづくり)×アート×食」をコンセプトとした拠点づくりも行っている。日本の製造業に新たな風を吹き込み、日本から製造業のイノベーションを起こす。アップルの創業者スティーブジョブズがかつて語った“Connecting the Dots”という言葉がある。やっていることはドット(点)であり、意味がないように思うこともあるだろうが、振り返ると全ては繋がっており、無駄はないという意味だ。「目の前にあることを一生懸命やる」ことで、いずれ必ずチャンスに繋がることを心に留めておいてほしい。



6. シェアリングトーク

■大阪工業大学 大学院 宮田 祈氏

大学院でデータサイエンスを研究しながら、会社経営と私立高校の非常勤講師をしている。経験を踏まえ、多くの人たちと対話し、チャンスがあれば遠慮なく獲りに行くことを勧めたい。学生、若いというだけで色々なチャンスが来る。自身も通っていたバーのオーナーから出資してもらった経験がある。もともと農業に関することで起業するつもりだったが、方向転換した。しかし、その経験も無駄にはなっていない。今は、学生と産業界や自治体とのマッチングを行う「産学ラボ」を立ち上げ、両者が足りない部分を補い合うことでWin-Winの関係を目指している。仕事を進めるうえでは、現場の担当者が理解してくれても、意思決定権のある「ラスボス」の賛同を得られなければ意味がない。管理体制のどこにどのような効果が表れるのかといった背景やメリットをきちんと説明できるようにしておきたい。「わかること」と「役立つこと」は違うからだ。



7. グループワーク(概要)

グループごとに社会的課題解決のための事業プランを1つ発案し、ワークシートに予算を記載のうえ、初年度の事業計画を練った。3つのグループからはそれぞれ「空き家専門の不動産代理店」、「小中学生を対象としたディスカッション能力向上のためのイベント企画事業」、「高級老人ホームの仲介事業」について発表があった。



8. プログラムの様子



9. 参加者アンケート

別紙のとおり

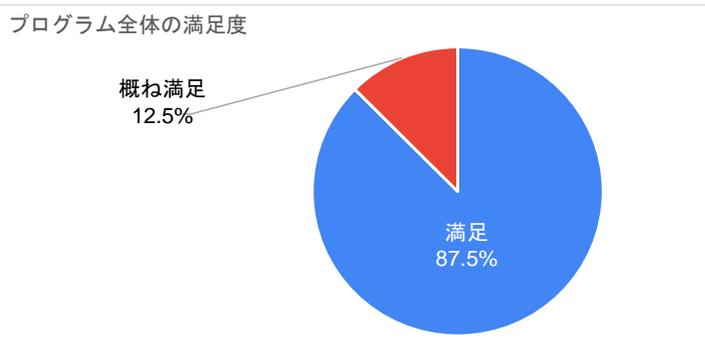
起業インターンシッププログラム 2022 参加者アンケート

参加者数 7大学13名(回答者数8名)

1. プログラム全体の満足度

(単位:名)

満足	7
概ね満足	1
満足できない点があった	0
不満	0



2. 上記と回答した理由

【満足】

- ・自分の知らない知識を話していただき、大変勉強になった。
- ・色々と勉強になった。
- ・起業家や大学教授、公的機関の方々の話を聞くことができたから。
- ・起業に対する考え方を少し学べてよかった。また、他大学の学生の考えを聞いてよかった。
- ・色々な人に会えた。
- ・初日に起業家の話を聞いて学ぶインプット、2日目はグループワークでディスカッションしアウトプットするという流れがとてもよかった。
- ・新たな一歩を踏み出すイメージが湧いた。

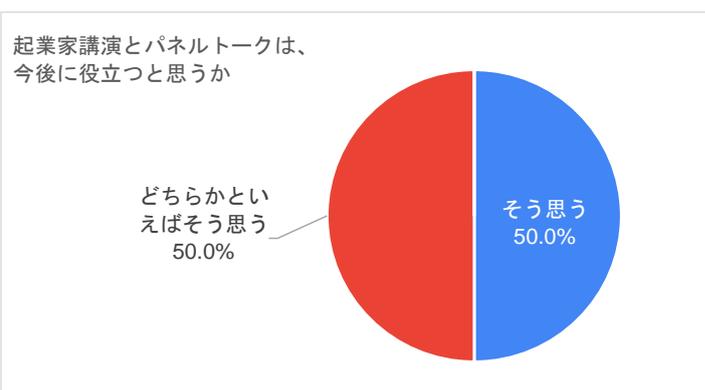
【概ね満足】

- ・よいプログラムだと思うが、起業の具体的な手法や実践についてさらに学びたかった。

3. 起業家講演とパネルトークは、今後役に立つと思うか

(単位:名)

そう思う	4
どちらかといえばそう思う	4
どちらかといえばそう思わない	0
そう思わない	0



4. 上記と回答した理由

【そう思う】

- ・社長の話を聞く機会は普段ないから、とても興味深かった。様々な経験をされているからこそできるアドバイスも沢山あって、今後の自分に活かそうと決めた。
- ・考え方や大切なことを知ることができた。

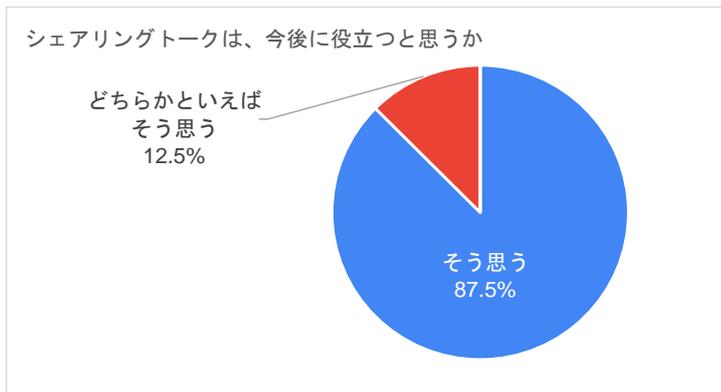
【どちらかといえばそう思う】

- ・好奇心が育まれた。
- ・話のスケールが大きく想像しにくかったが、行動さえ起こせば年齢に関係なく、大きなこともできるんだなと思った。

5. シェアリングトークは、今後に役立つと思うか

(単位:名)

そう思う	7
どちらかといえばそう思う	1
どちらかといえばそう思わない	0
そう思わない	0



6. 上記と回答した理由

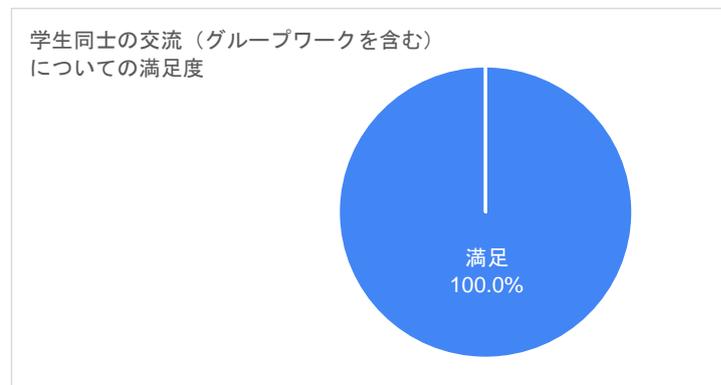
【そう思う】

- ・勉強のモチベーションになった。
- ・具体的なアドバイスをもらい、自分で事業を起こす擬似計画もできたので、勉強になった。
- ・刺激を受けた。

7. 学生同士の交流(グループワークを含む)についての満足度

(単位:名)

満足	8
概ね満足	0
満足できない点があった	0
不満	0



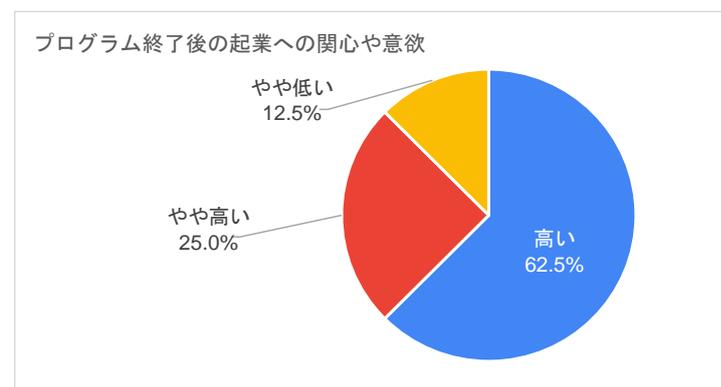
8. 上記と回答した理由

- ・起業のシミュレーションをすることができて、すごくなった。
- ・全く知らない人とのグループワークは新鮮で、留学生の方とも話をする機会があったのが本当によかった。
- ・もっと他のチームの学生と関わればよかった。

9. プログラム終了後の起業への関心や意欲

(単位:名)

高い	5
やや高い	2
やや低い	1
低い	0



10. 上記と回答した理由

【高い】

- ・自分のやりたいことが社会に影響を与えることができることを想像し、ワクワクした。
- ・さらにやる気になった。
- ・起業家の話を聞いて、自分の想いが大切だということを知れたから。
- ・勉強してからちゃんと起業したい。
- ・副業の起業について意欲が強いので、リスクとコストなどについてもっと知りたい。

【やや高い】

- ・起業について細かく知ることができたから。
- ・社会課題を見つければ、起業ができるというのが、逆説的で面白かった。

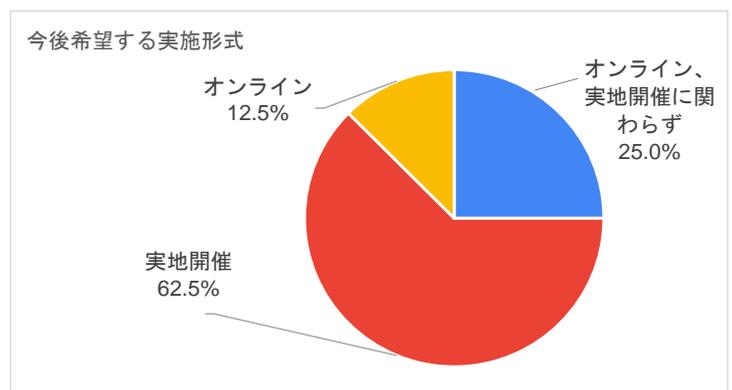
【やや低い】

- ・あまり自分には向いていないと思う面があったから。

11. 今後希望する実施形式

(単位:名)

オンライン、実地開催に関わらず	2
実地開催	5
オンライン	1



12. 上記と回答した理由

【実際の会場(実地開催)を希望】

- ・対面の方が意見を出しやすいため。
- ・対面の方が集中できて、他の参加者とも話が盛り上がるから。

13. その他プログラム全体についての感想や意見

- ・自分の不安な気持ちが少し和らぎ、後押ししてもらった気持ちになった。
- ・初めてこのようなプログラムに参加したが、とてもよい経験になったので、また他のプログラムにも絶対に参加しようと思った。
- ・自身が外国人のため、半分ぐらいしか理解ができず残念だった。スライドなどの資料配布があればよかった。